

平成 26 年 2 月 13 日

2 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木の丸太生産は好天が続き順調。入荷量は平年を上回る。特に年度末を控えて補助事業の間伐材が多い。荷動きは製材工場の積極的な原木手当により好調。スギは中目材の引合い良好、柱材も順調な荷動き。ヒノキは過熱していた土台取りや柱材などが一変して平常な引合いに戻る。高止りしていた価格は、調整局面から一転して柱材中心に値下がりに転じるものもでてきた。スギは柱材が弱保合で中目材は横這い。ヒノキは高騰していた柱材・土台取りが急落し、中目材は横這いでの推移。

群馬の製材工場はほぼフル操業が続く。原木の入荷はヒノキ土台用以外は問題なし。製品の販売は新規受注に目ぼしいものがなくなりつつあり、4月以降どうなるか不安。製品在庫は少ない。ヒノキ土台が多少入荷している模様で、製品価格は強気一辺倒からやや軟化気味。県の家づくり補助金は2月補正で大幅増額、3月までの消化が心配。ポイント事業ではベイマツが県内で認められたが、他県が遅れている模様。

2. 米材

米国丸太は、好調な米国住宅着工需要と中国向け輸出で、対日価格は4か月連続で\$20/千スクリブナー値上がり。カナダ丸太は冬山に入り目細材は払底、無い物高の状態続く。産地は天候が良く伐採は順調だが、出材を上回る配船が続く、一部の港では船積みに支障が出ている。ウェアハウザー社の2月積み米マツ IS ソートは、前月比\$20アップで推定\$910。米材原木の入・出荷、在庫ともに横這。国内大型港湾製材工場は引続き好調。増産体制を継続し産地での原木買付を増やしている。内陸部製材工場も国産材不足から一部米材に回帰し、引合いは堅調。米製材品の TLT(東京木材埠頭) 1月入荷量は30.7千m³で前月とほぼ同じ、出荷量は38.3千m³で同6.1%減、在庫量は57.3千m³で同11.7%減。産地情勢は、ランダムレングス紙上のコンポジット価格が\$403/Mfbmで依然好調。北米東部は寒波の影響で一時的に仕事量は減るが、2014年通じての新設住宅着工は105-110万戸で北米の木材市況は底堅い見通し。産地価格はKDベイマツ・スタッドJグレード\$500-510/m³で変わらず。SPFJグレードはスポット価格で\$560/m³程度。SPF第1QTR入荷量は若干減少。荷動き・先行きは、プレカ

ット向け構造材・羽柄材は好調だが、2月以降は稼働が落ち着く模様。米材製品の輸入量は今後横這いで推移する見込み。プレカットの稼働率が安定していれば相場の乱れは考えにくいだが、消費税増税後の仕事量が懸念されるどころ。

3. 南洋材

サバは、雨期と旧正月のため原木出材は大きく低迷し、多くの製材工場は在庫が相当減少。短期的に材不足が予想されるが、円安の影響で日本側も値下げ要請を強め綱引き続く。サラワクもサバ同様に材不足が依然低迷。原木が少ない中、材不足とコスト高を背景にシッパーの値上げ攻勢強まる。PNG・ソロモンは依然雨が多く出材少ない中で、中国勢の買付が旺盛で玉不足が続く。南洋材丸太の入荷は減少、出荷・在庫は横這。原木の販売は合板用、製材用とも変化なし。製材品は、円安と産地高のため、集成材、無垢平割材、棒類とも価格は少しずつ上昇。材の不足感から荷動きは堅調を維持。

4. 北洋材

ロシア極東は暖冬で冬山造材が遅れ、丸太の搬出も大幅に遅れていたが、2月に入りようやくフレッシュ材が出る模様。シベリア地方では遅れていたアカマツの出材が順調に出始めている。旧正月も終わり中国向けの買いが動き始めた。特にアカマツの1・2等ミックス丸太の買いが多く、日本向け仕分け材シッパーが少なく、日本向け丸太減少の要因にもなっている。富山新港の1月丸太入荷量は11千 m^3 （エゾマツ6千 m^3 、カラマツ0、アカマツ5千 m^3 ）、製品は10千 m^3 。価格動向は、丸太・製材品ともエゾマツ、カラマツは強含み、アカマツ製材品は横這い。京浜港のアカマツ輸入製品の荷動き低調だが、入荷および製品在庫が減少。国内製材工場はエゾマツ、アカマツ丸太、原板とも依然不採算。稼働状況は採算合わず生産調整。

5. 合板

原料丸太のうち国産材は、集材にも苦勞している状況で価格は強い。南洋材も現地は雨期で、出材が低調なため強気での推移。米材は内需が好調で強含み横這い。12月の国内合板生産量24.2万 m^3 のうち、針葉樹合板は22.7万 m^3 で、出荷量も22.7万 m^3 と冬場で生産性が低下する中、またトラック不足の中でかなり高水準な状態続く。このため在庫量は11.9万 m^3 でこの1年間で最低。販売価格は、2月も30円値上げしているが、旺盛な需要でメーカーの強気姿勢は変わらず。4月以降の動き如何でどうなるか注視。国産針葉樹合板は依然配送遅れの深刻な状態が続き、加えて玉不足も深刻で相当量の仮需が発生し、受注残も溜まるという悪循環の状態。輸入合板も荷動きは活発で、アイテムにより不足感あ

り。価格は値上げスピードが速く、現場の営業マン泣かせの状況。先行き針葉樹合板の混乱は今がピークとの見方もあるが、簡単に収まりそうにはない。さらに2月のメーカー打ち出し価格が30円アップなので、今後の価格動向にも注意が必要。輸入合板も現在の需給バランスや現地の状況を勘案すれば先高観は否めない状況。

6. 構造用集成材

原料ラミナの現地生産、入港とも順調。国産集成材の受注は良く、販売の荷動き・先行きともに良好。在庫状況は引続き少ない。ラミナ価格はCIF40,500円～41,000円/m³で、2月から3月にかけてピークか。現地価格はRW265€が相場。輸入集成材は4月以降値ごろ感のある製品が入ってくる可能性あり。昨年からの忙しさが1月を過ぎても継続中。2月の全国のプレカット工場の稼働率は100%。国産材も受注は多いが、ヒノキ無垢土台、カラマツ桁は入荷少なく、外材へ仕様変更するビルダーが増加。

7. 市売問屋

国産材の構造材は、依然スギ、ヒノキの土台角、柱角の引合い活発だが、入荷少なく対応に苦慮。造作材は、増改築やリフォーム需要が旺盛なためスギ、ヒノキとも引合い多く動きも良い。外材の構造材は、国産材の入荷薄により、止む無くベイヒバ、ベイツガ等へのシフトが進む。造作材は依然としてスプルー、ベイヒバ等建具用良材少なく、需要に応じられない。市日の来場者数は微増で、市日以外の付売り来場者も増加。消費増税前の駐込み需要は、4月以降の反動減が不安。年明け後も国産材の入荷少なく林場の空きが目立つ。この状態が解消しないと国産材離れがさらに進み、外材へのシフトに歯止めがかからなくなる恐れ大。

8. 小売

国産材の構造材はスギ強保合、ヒノキ柱は保合で土台は強保合続く。外材はロシアアカマツ垂木、ベイツガKD角・平割、SPFいずれも保合。造作材はスプルー良材強保合、ナラ・タモ保合。集成材はWW、RW梁、柱とも保合。合板は針葉樹・ラワンともに強保合。3×6判12mmも入荷順番待ち。長尺針葉樹合板、厚物合板は品薄状態で納期かかる。プレカット工場の動向は、2月になり各工場ともに落ち着いてはきたものの依然フル生産。価格は保合。工務店は1月上棟予定が職人不足で、間に合わない状況。ここにきて職人不足は深刻。

2月の需給・価格動向

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	→	↘	↗
南洋材	丸太	→	→	↘
	製材品	→	↘	↘

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	→	→	→

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m) 2等	↘
			スギ中丸太(3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材(3m) 2等	↘
			ヒノキ中丸太(4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ柱(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギ間柱 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×4m	→
		ヒノキ柱角(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→	
		ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→	
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	↗
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ カスケード(カナダ産)	→
			米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↗
			米マツ桁角(GR) Std&Btr S4S 4・1/8'' 13'	→
			米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16'' 13'	→
		米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	→	
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
	製材品		産地価格	ホワイトセラヤ 平割(サバ州産)
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→
北洋材	製材品	国内卸売価格 (東京問屋着値)	エゾマツ(3.0×4.0×3.8m) 特等	↗
			アカマツ(3.0×4.0×4m) 特等	→
			カラマツ(10.5×10.5×4m) 特等	※
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	→
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↗
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↗
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→